

令和3年度  
市民意識調査「子どもの生活状況調査」

報告書〈概要版〉

令和4年3月  
北九州市子ども家庭局



## 〈目次〉

1. 分析結果概要 .....	1
1.1.保護者の生活状況 .....	1
1.2.子どもの生活状況 .....	6
2. 調査の実施方法等の概要 .....	12
2.1.調査の目的 .....	12
2.2.調査の仕様及び設問 .....	12
3. 調査回答者の基本属性等 .....	14

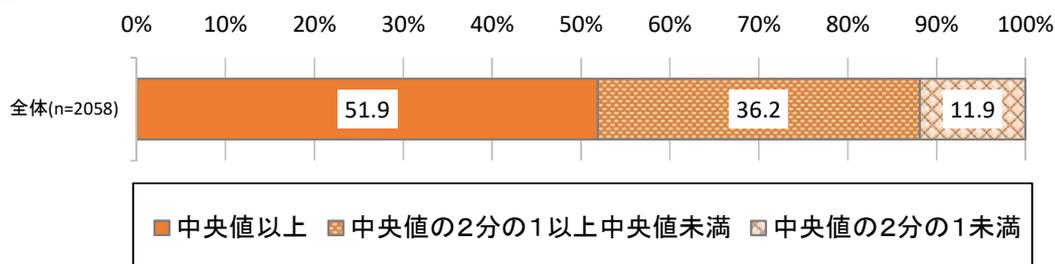
## 1. 分析結果概要

- 本報告書では、保護者・子どもの生活状況について、北九州市の実態を把握するとともに、「等価世帯収入」の水準と「親の婚姻状況」別に比較分析を行った。分析の結果、世帯収入の水準や親の婚姻状況によって、子どもの学習・生活・心理など様々な面が影響を受けていた。
- 特に「等価世帯収入が中央値の2分の1未満」でもっとも収入が低い水準の世帯や、ひとり親世帯が、親子ともに多くの困難に直面している。ただし、「等価世帯収入が中央値の2分の1以上だが中央値未満」の、いわば収入が中低位の水準の世帯でも、多様な課題が生じていた。
- 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活状況がさらに厳しくなっている可能性がある。

### 1.1. 保護者の生活状況

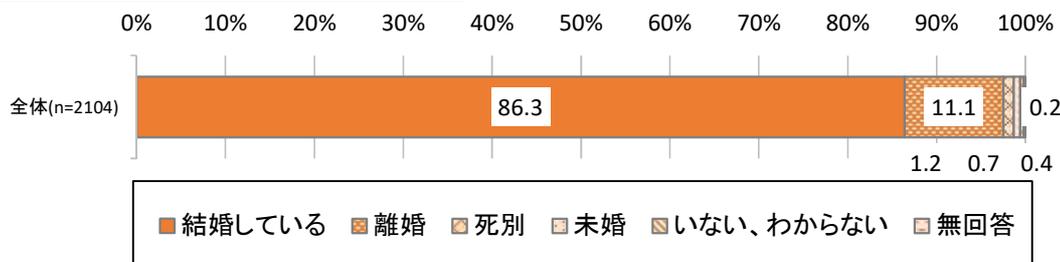
#### 【等価世帯収入】

- ① 2021年の世帯全員のおおよその年間収入について、家族の人数を踏まえて「等価世帯収入」の水準により分類した。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当するのは11.9%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは36.2%、「中央値以上」に該当するのは51.9%であった。



#### 【親の婚姻状況】

- ② 子どもの親の婚姻状況は、「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」が86.3%、「離婚」が11.1%、「死別」が1.2%、「未婚」が0.7%であった。「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて13.0%であり、これらを「ひとり親世帯」であるとして集計した。

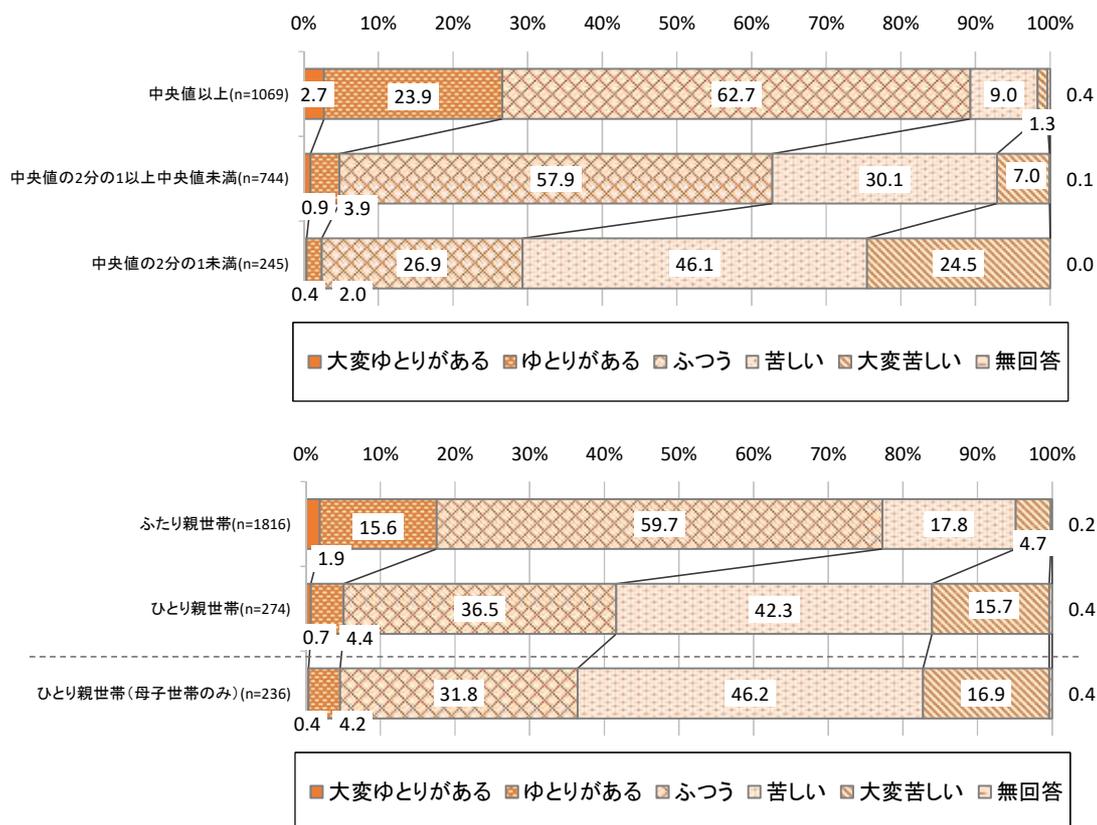


※等価世帯収入とは、年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入とし、(例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。)同居家族の人数の平方根をとったもので除した値のことをいう。

## 【現在の暮らしの状況①】

- ③ 現在の暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、もっとも収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、全体の2倍以上に及んだ。

「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合は、全体では 27.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 37.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 70.6%、「ひとり親世帯」全体では 58.0%、「母子世帯」のみでは 63.1%であった。



## 【現在の暮らしの状況②】

- ④ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高い。

「食料が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では 14.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 19.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 48.6%、「ひとり親世帯」全体では 34.4%、「母子世帯」のみでは 36.1%であった。「衣服が買えなかった経験」が「あった」とする割合は、全体では 19.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 25.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 62.1%、「ひとり親世帯」全体では 48.5%、「母子世帯」のみでは 53.0%であった。「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」のいずれか1つ以上で未払いが発生している割合は、全体では 5.1%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 6.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 19.6%、「ひとり親世帯」全体では 11.7%、「母子世帯」のみでは 12.7%であった。

【子どもや学校との関わり】

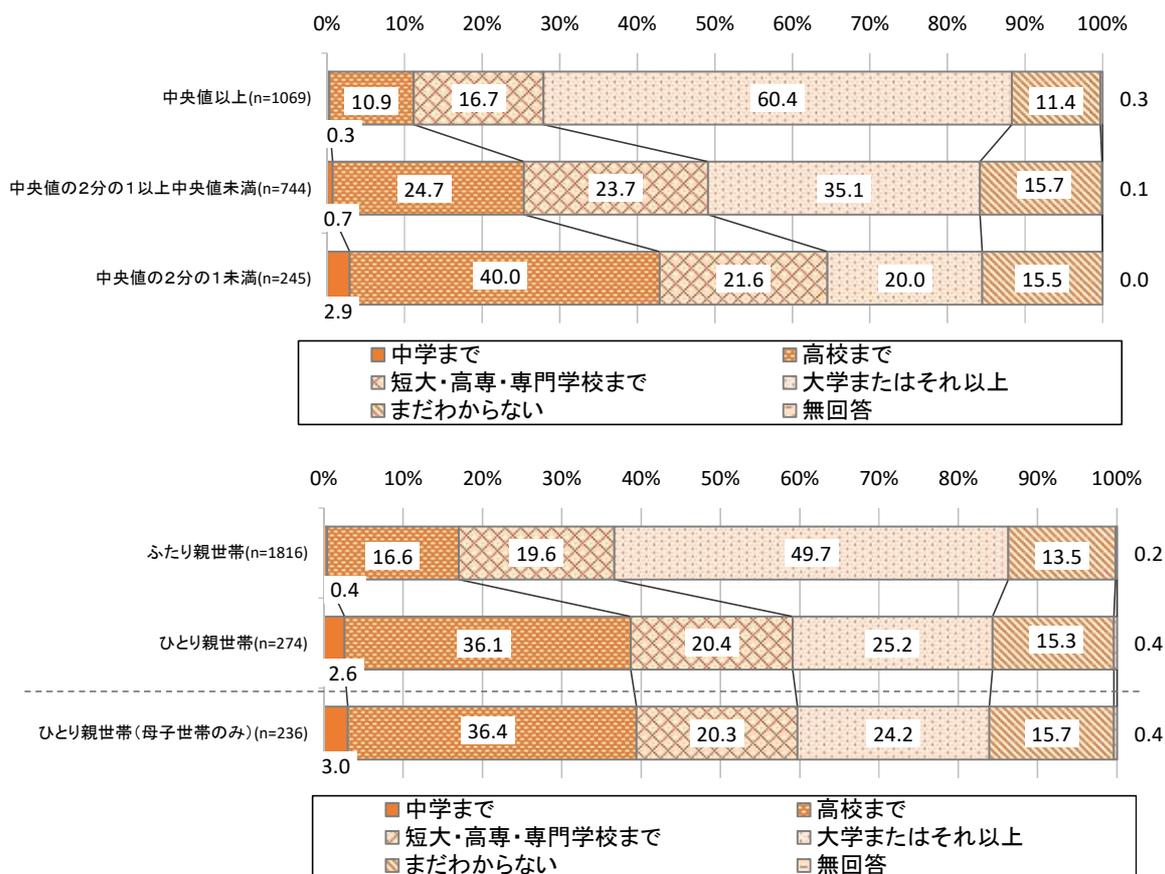
- ⑤ 収入の水準や世帯の状況の違いは、「子どもとの関わり方」や「学校との関わり・参加」の状況の差異にも関連する。

一例として、「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」かについて、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた割合は、全体では 36.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 37.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 47.0%、「ひとり親世帯」全体では 42.3%、「母子世帯」のみでは 44.1%であった。

【進学の期待・展望①】

- ⑥ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子どもが将来どの段階まで進学するかの希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では 46.4%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 35.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 20.0%、「ひとり親世帯」全体では 25.2%、「母子世帯」のみでは 24.2%であった。



## 【進学・期待・展望②】

- ⑦ 子どもの進学段階について「高校まで」と考える理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合が高い。

子どもの進学段階について「高校まで」と考える理由として「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合は、全体では 29.9%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 34.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 42.9%、「ひとり親世帯」全体では 48.5%、「母子世帯」のみでは 50.0%であった。

## 【頼れる人の有無】

- ⑧ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、頼れる人がいないと回答した割合が高い。

一例として、「いざというときのお金の援助に関して頼れる人」について、「いない」の割合は、全体では 12.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 14.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 29.4%、「ひとり親世帯」全体では 23.0%、「母子世帯」のみでは 24.2%であった。

## 【心理的な状況】

- ⑨ 保護者の心理的な状況に関して、収入の低い世帯やひとり親世帯では、「うつ・不安障害相当」に該当する者の割合が高い。

保護者の心理的な状況に関して、「うつ・不安障害相当」にあると考えられる割合は、全体では 8.0%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 9.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 21.6%、「ひとり親世帯」全体では 18.6%、「母子世帯」のみでは 20.8%であった。

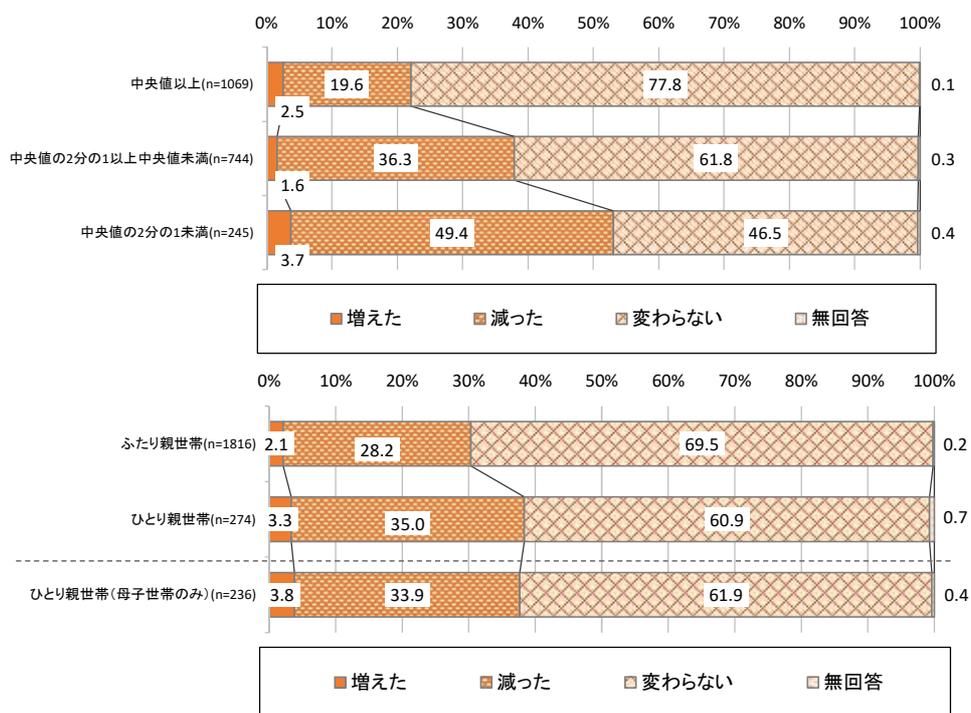
※「保護者の心理的な状態」に関して、調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定し、結果を足し合わせて、K6のスコアを算出した。

K6とは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。

## 【新型コロナウイルス感染症の影響①】

- ⑩ 新型コロナウイルス感染症の拡大による「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、収入が低い世帯で高い。

「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、全体では 29.2%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 36.3%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 49.4%であった。



## 【新型コロナウイルス感染症の影響②】

- ⑪ 「生活に必要な支出の変化」、「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「生活に必要な支出の変化」について「増えた」と回答した割合は、全体では 38.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 43.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 58.8%、「ひとり親世帯」全体では 48.5%、「母子世帯」のみでは 52.5%であった。

「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」について「増えた」と回答した割合は、全体では 12.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 17.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 38.4%、「ひとり親世帯」全体では 27.4%、「母子世帯」のみでは 29.7%であった。

「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、全体では 33.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 36.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 51.4%、「ひとり親世帯」全体では 45.6%、「母子世帯」のみでは 49.2%であった。

## 1.2.子どもの生活状況

### 【学習の状況①】

- ① 「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、全体では 9.0%であったのに対し、等価世帯収入の水準が、「中央値の2分の1未満」の世帯で 15.2%、「ひとり親世帯」全体では 17.9%、「母子世帯」のみでは 18.7%であった。

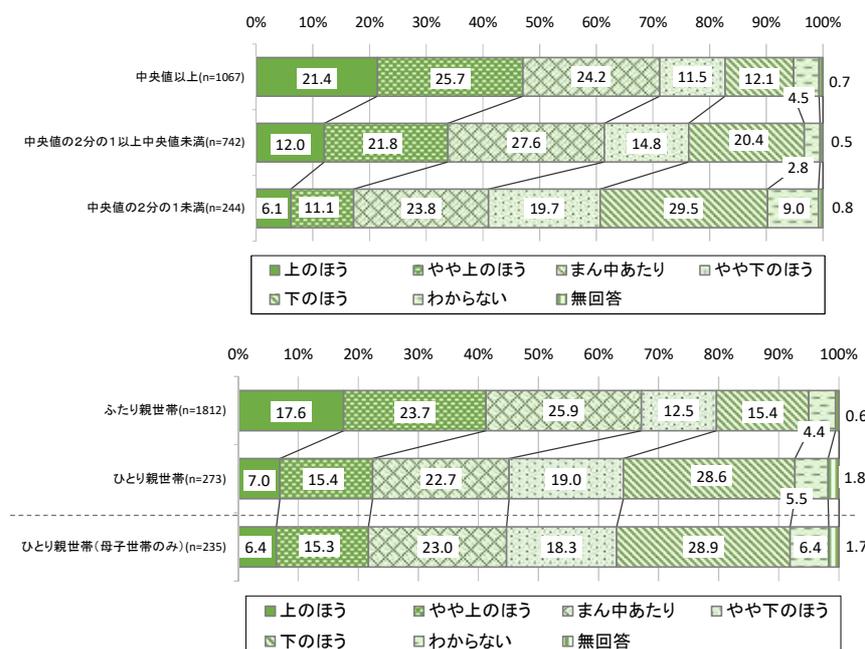
### 【学習の状況②】

- ② 学校がある日に授業以外の勉強を「まったくしない」と回答した割合、クラスのなかでの成績について「下のほう」と回答した割合、学校の授業について「わからない」と回答した割合は、それぞれ収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

学校がある日に勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では 10.9%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 12.7%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 18.0%、「ひとり親世帯」全体では 17.9%、「母子世帯」のみでは 17.0%であった。

クラスのなかでの成績について「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、全体では 30.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 35.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 49.2%、「ひとり親世帯」全体では 47.6%、「母子世帯」のみでは 47.2%であった。

学校の授業について「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は、全体では 13.3%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 15.5%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 28.7%、「ひとり親世帯」全体では 29.7%、「母子世帯」のみでは 29.8%であった。



## 【進学希望】

- ③ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では 44.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 35.4%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 25.0%、「ひとり親世帯」全体では 29.7%、「母子世帯」のみでは 28.5%であった。

## 【部活動】

- ④ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、部活動等に参加していない割合が高い。また、部活動に参加していない理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「費用がかかるから」と回答した割合が高い。

部活動等に「参加していない」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では 16.6%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 22.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 40.2%、「ひとり親世帯」全体では 36.3%、「母子世帯」のみでは 37.0%であった。

部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答した割合は、全体では 6.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 4.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 11.2%、「ひとり親世帯」全体では 12.1%、「母子世帯」のみでは 13.8%であった。

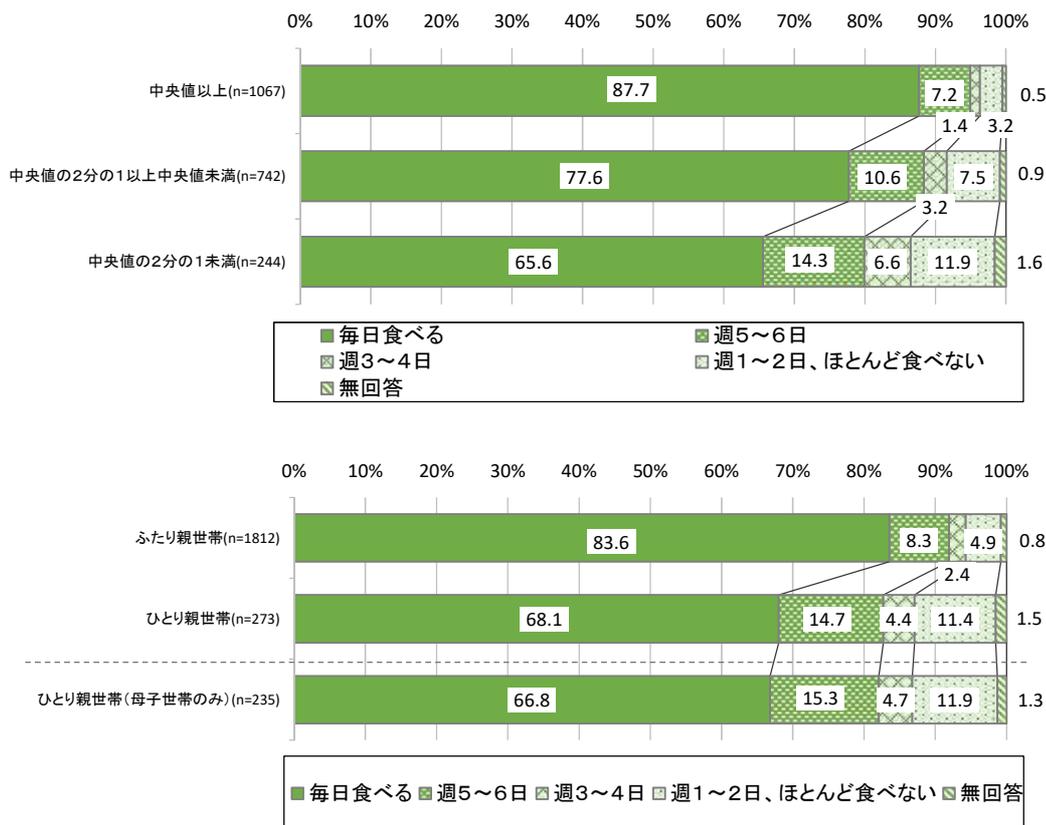
【日常生活の状況】

- ⑤ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「朝食」や「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる」と回答した割合が低い。また、就寝時間についてほぼ同じ時間に寝ていると回答した割合が低い。

「朝食」について「毎日食べる(週7日)」と回答した割合は、全体では 81.6%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 77.6%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 65.6%、「ひとり親世帯」全体では 68.1%、「母子世帯」のみでは 66.8%であった。

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる(週7日)」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では 90.5%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 84.8%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 79.5%、「ひとり親世帯」全体では 76.9%、「母子世帯」のみでは 77.0%であった。

「ふだんほぼ同じ時間に寝ているか」について、「そうである」と回答した割合は、全体では 34.5%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 34.9%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 31.1%、「ひとり親世帯」全体では 29.7%、「母子世帯」のみでは 30.2%であった。



【相談相手】

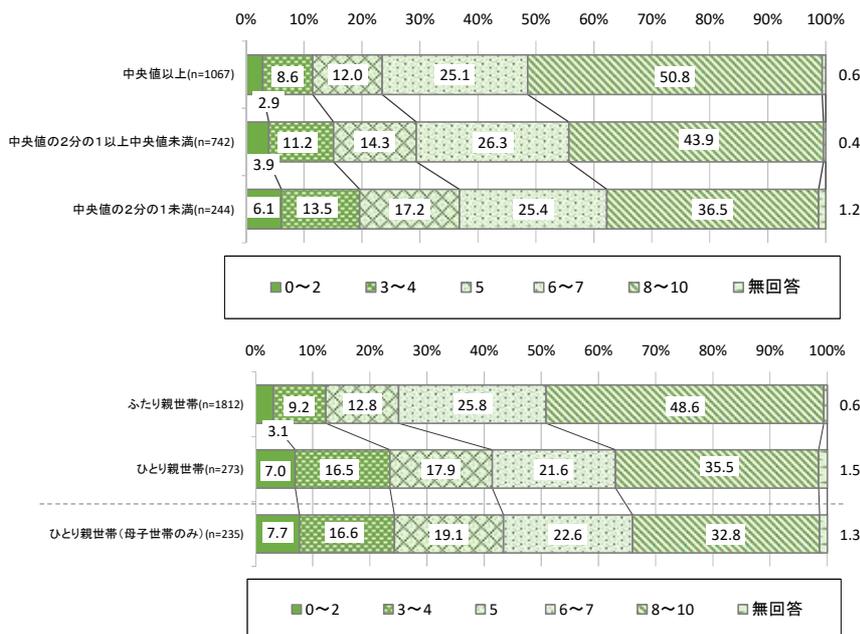
- ⑥ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、相談できる相手に関して、「だれにも相談できない、相談しない」と回答した割合が高い。

困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人について、「だれにも相談できない、誰にも相談しない」と回答した割合は、全体では 8.8%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 10.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 11.5%、「ひとり親世帯」全体、「母子世帯」のみとも 13.2%であった。

【生活満足度】

- ⑦ 収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、生活満足度が低い。

生活満足度については、「0:まったく満足していない」から「10:十分に満足している」の11段階で回答を得たものを5つの分類に再分類して集計した。「6~10」(満足度が高い方の回答)に該当する割合は、全体では 72.0%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 70.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 61.9%、「ひとり親世帯」全体では 57.1%、「母子世帯」のみでは 55.4%であった。

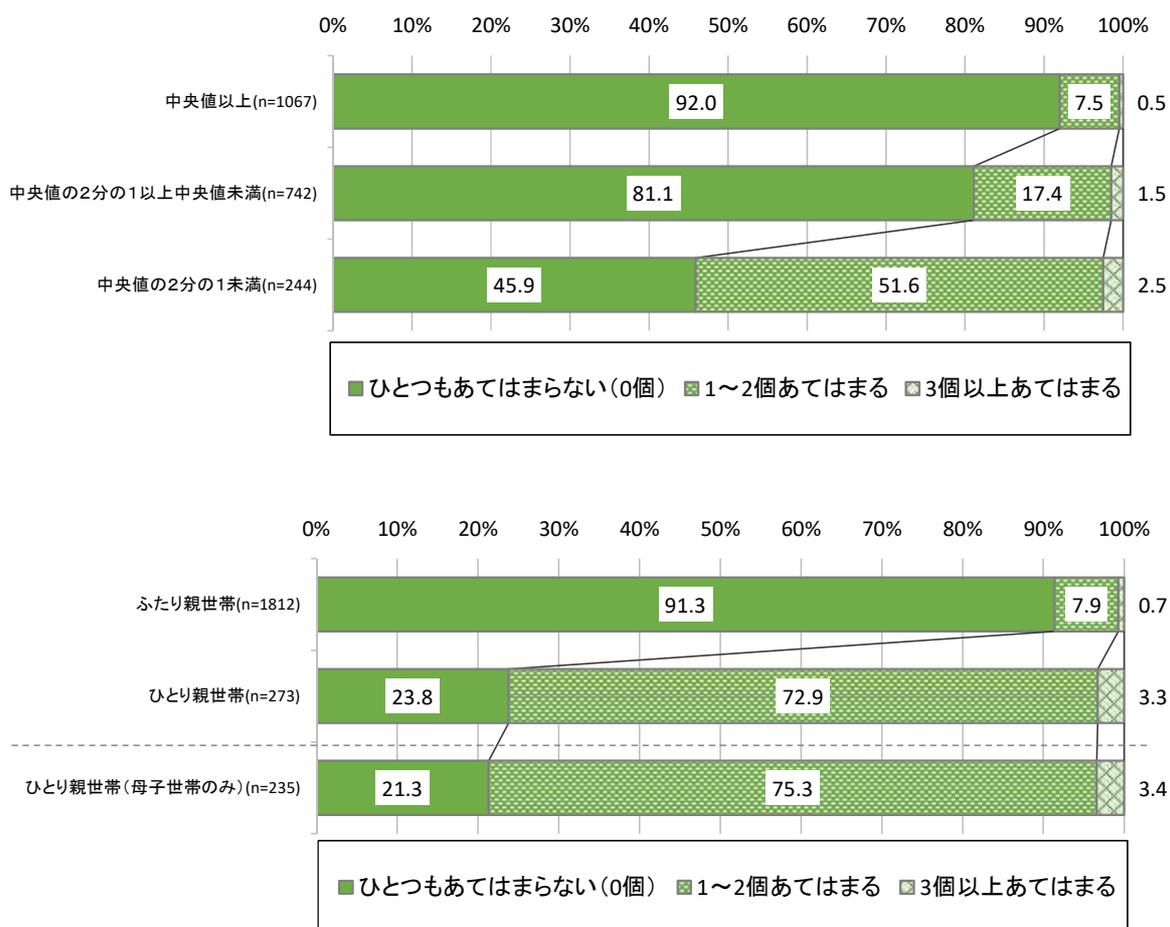


## 【逆境体験】

- ⑧ 収入の水準が低い世帯では、「逆境体験」を経験している割合が高い。また、「逆境体験」を経験している場合には、現在の生活満足度が低いという関連性がある。

「逆境体験」に関する8項目について、「ひとつもあてはまらない(0個)」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が「中央値以上」の世帯では92.0%であったのに対し、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では81.1%、「中央値の2分の1未満」の世帯では45.9%であった。

生活満足度の平均値は、逆境体験について0個の場合では7.3、1個以上該当する場合では5.9であった。



## 【新型コロナウイルス感染症の影響①】

- ⑨ 新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。

「増えた」と回答した割合は、全体では 26.1%であったのに対し、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では 29.2%、「中央値の2分の1未満」の世帯では 43.4%、「ひとり親世帯」全体では 36.3%、「母子世帯」のみでは 38.3%であった。

## 【新型コロナウイルス感染症の影響②】

- ⑩ 新型コロナウイルス感染症の拡大によって学校の授業がわからないと感じることが増えることと、現在の生活満足度には関連性がみられる。

生活満足度の平均値は、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した場合は 6.2、「減った」と回答した場合は 7.3、「変わらない」と回答した場合は 7.3 であった。

## 2. 調査の実施方法等の概要

### 2.1. 調査の目的

子どもの貧困対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的として、「令和3年度子どもの生活状況調査」を実施した。

この調査では、北九州市内に在住の子ども（中学2年生）及びその保護者に対し、現在の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況、新型コロナウイルス感染症による影響等について把握するための項目を設けた。

### 2.2. 調査の仕様及び設問

#### (1) 調査地域、調査対象者、標本数、サンプリング方法

北九州市内在住の中学生がいる世帯 5,000 組（中学2年生 5,000 人及びその保護者 5,000 人計 10,000 人） 住民基本台帳から無作為抽出

#### (2) 調査方法、調査期間、有効回収数・回収率

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査期間：令和3年11月11日～令和3年12月15日

回収率：保護者 42.1%（2,104 票）

中学生 40.0%（2,000 票）

#### (3) 調査委託機関

委託機関：株式会社日本統計センター

#### (4) 本報告書を読む際の留意点

- 図表内の「n=〇〇」はその設問についての有効回答者数（集計対象件数）を示している。
- 回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、単一回答の設問の各選択肢の回答に関する数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

## (5) 調査の設問

調査項目は、令和3年2月に内閣府が実施した「子供の生活状況調査」と同じ項目とした。

## 保護者票

問番号	概要
1	回答者の続柄
2	世帯人数
3	家族構成
4	親の婚姻状況
5	ひとり親の養育費受取状況
6	家庭で使用している言語
7	親の学歴
8	親の雇用形態
9	就労していない理由
10	幼児期の教育(0~2歳)
11	幼児期の教育(3~5歳)
12	保護者の関わり方
13	学校行事への参加
14	進学の見通し
15	想定する進学先の理由
16	保護者の頼れる相手
17	暮らし向き(主観)
18	世帯収入
19	滞納・欠乏経験(食料)
20	滞納・欠乏経験(衣服)
21	滞納・欠乏経験 (電気・ガス・水道料金)
22	精神状態
23	コロナ禍の影響
24	支援の利用状況

## 子供票

問番号	概要
1	本人の性別
2	学習環境
3	学習習慣
4	学習成績
5	授業の理解度
6	授業についていけなくなった時期
7	進学希望
8	想定する進学先の理由
9	部活動等の状況
10	部活動等を行わない理由
11	食事の頻度
12	就寝時間の規則性
13	信頼できる大人・友人
14	主観的幸福(生活満足度)
15	精神状態
16	コロナ禍の影響
17	逆境経験
18	支援の利用状況
19	支援の効果

## 3. 調査回答者の基本属性等

## 【保護者】

## ① 子どもとの続柄

保護者票問1. お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(SA)

調査回答者の、子どもからみた続柄は、「母親（継母を含む。）」が68.2%、「父親（継父を含む。）」が31.2%、「祖父母」が0.2%、「その他」が0.2%となっている。

	母親	父親	祖父母	その他	不明・無回答	合計
件数(件)	1,435	657	4	4	4	2,104
割合(%)	68.2	31.2	0.2	0.2	0.2	100.0

## ② 同居家族の人数

保護者票問2. お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数(お子さんを含む。)を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。(SA)

子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数は、「4人」が42.1%、「5人」が23.4%、「3人」が20.8%となっている。

	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	不明・無回答	合計
件数(件)	74	438	885	493	135	45	18	16	2,104
割合(%)	3.5	20.8	42.1	23.4	6.4	2.1	0.9	0.8	100.0

## ③ 同居家族に含まれる方（複数回答）

保護者票問3. 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。(MA)

子どもと同居し、生計を同一にしている家族に含まれる方としては、「母親」が87.1%、「父親」が72.4%、「祖父母」が7.3%、「兄弟姉妹」が77.3%、「その他」が1.5%となっている。

	母親	父親	祖父母	兄弟姉妹	その他	不明・無回答	合計
件数(件)	1,832	1,524	153	1,627	31	4	2,104
割合(%)	87.1	72.4	7.3	77.3	1.5	0.2	100.0

## ④ 婚姻の状況

保護者票問4. お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(SA)

子どもの親の婚姻状況は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が86.3%、「離婚」が11.1%、「死別」が1.2%、「未婚」が0.7%となっている。

「離婚」、「死別」、「未婚」は合わせて13.0%であり、これらは「ひとり親世帯」であると考えられる。また、調査回答者の子どもとの続柄に関する回答（表1-3-1を参照）から、「母子世帯」であるか「父子世帯」であるかを判別すると、ひとり親世帯であると考えられる世帯のうち12.4%は父子世帯となっている。

このほか、「ふたり親世帯」、「ひとり親世帯」それぞれについて、同居家族に祖父母が含まれている割合をみると、「ふたり親世帯」で祖父母と同居している割合は5.6%、「ひとり親世帯」では17.5%となっている。

表 婚姻の状況

	結婚している	離婚	死別	未婚	いない、 わからない	不明・ 無回答	合計
件数(件)	1,816	234	25	15	9	5	2,104
割合(%)	86.3	11.1	1.2	0.7	0.4	0.2	100.0

表 ひとり親世帯の内訳

	回答者母親(母子世帯)	回答者父親(父子世帯)	祖父母・その他	ひとり親世帯計
件数(件)	236	34	4	274
割合(%)	86.1	12.4	1.5	100.0

表 ふたり親・ひとり親それぞれの祖父母との同居の有無

		父母以外の 同居者なし	祖父母同居	祖父母以外の 者と同居	不明・ 無回答等	計
ふたり親 世帯	件数(件)	1,690	101	25	0	1,816
	割合(%)	93.1	5.6	1.4	0.0	100.0
ひとり親 世帯	件数(件)	189	48	35	2	274
	割合(%)	69.0	17.5	12.8	0.7	100.0
全体	件数(件)	1,885	153	62	4	2,104
	割合(%)	89.6	7.3	2.9	0.2	100.0

## ⑤ 日本語以外の言語使用

保護者票問6. ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(SA)

家庭での使用言語については、「日本語のみを使用している」が97.6%、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が1.9%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.1%となっている。

表 日本語以外の言語使用

	日本語のみを使用している	日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	日本語以外の言語を使うことが多い	不明・無回答	合計
件数(件)	2,053	40	3	8	2,104
割合(%)	97.6	1.9	0.1	0.4	100.0

## ⑥ 最終学歴(卒業した学校)

保護者票問7. お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください。(SA)

子どもの親の最終学歴(卒業した学校)に関し、「母親」については、「高校(高等部)まで」が31.2%、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が44.6%、「大学またはそれ以上」が19.1%となっている。

「父親」については、「高校(高等部)まで」が33.3%、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が16.0%、「大学またはそれ以上」が39.1%となっている。

母親・父親の最終学歴の組み合わせとして、「いずれも、大学またはそれ以上」、「いずれかが、大学またはそれ以上」、「その他(不明等を含む)」の3つの分類で判別すると、それぞれ、割合は13.5%、31.2%、55.3%となっている。

表 母親・父親の最終学歴(卒業した学校)

		中学まで	高校まで	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	いない、わからない	不明・無回答	全体
母親	件数(件)	75	657	938	401	8	25	2,104
	割合(%)	3.6	31.2	44.6	19.1	0.4	1.2	100.0
父親	件数(件)	108	700	337	823	30	106	2,104
	割合(%)	5.1	33.3	16.0	39.1	1.4	5.0	100.0

表 母親・父親の最終学歴(卒業した学校)の組み合わせ

	父母のいずれも、大学またはそれ以上	父母のいずれかが、大学またはそれ以上	その他(不明等も含む)	全体
件数(件)	284	656	1,164	2,104
割合(%)	13.5	31.2	55.3	100.0

## 【子ども】

## ① 性別

中学生票問1. あなたの性別を教えてください。(SA)

調査に回答した子どもの性別は、「男」が48.1%、「女」が50.1%、「その他・答えたくない」が0.9%となっている。

表 子どもの性別

	男	女	その他・ 答えたくない	無回答	合計
件数(件)	1,011	1,052	19	18	2,100
割合(%)	48.1	50.1	0.9	0.9	100.0